

3 月 臨 時 教 育 委 員 会 会 議 録 （ 要 点 ）

日 時	令和6年3月11日（月）午後2時00分
場 所	庁舎第3別館2階 会議室
出席委員	教育長 小澤和樹、委員 山本泰正、委員 長井俊朗 委員 竹田美和、委員 野間真美
会議に出席した者の職・氏名	教育政策局長 正岡靖彦 教育大綱推進課長 鳥生幸司、学校教育課長 井上洋、 教育大綱推進課長補佐 崎山憲一
傍聴人	なし
議 題	議案 議案第5号 県費負担教職員の人事の内申について その他1 学校適正配置基本方針策定に向けた進捗状況について その他2 今治市学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針について
小澤教育長	午後2時00分、開会を宣す
	日程番号1、会議録の署名委員に、竹田委員、野間委員を指名する。
小澤教育長	議事に入る前に「議案第5号 県費負担教職員の人事の内申について」を、今治市教育委員会会議規則第11条に基づき、非公開として審議することについて問う。
—各委員—	異議なし
小澤教育長	「議案第5号 県費負担教職員の人事の内申について」は、非公開で審議する。
小澤教育長	<議題審議> 「議案第5号 県費負担教職員の人事の内申について」説明を求める
	— 【非公開】 —

井上学校教育課長	<p>－「議案第5号 県費負担教職員の人事の内申について」説明－</p> <p>－【原案のとおり承認】－</p>
小澤教育長	「その他1 学校適正配置基本方針策定に向けた進捗状況について」説明を求める
鳥生教育大綱推進課長	－「その他1 学校適正配置基本方針策定に向けた進捗状況について」説明－
小澤教育長	質問、意見がないか問う
野間委員	まず、中学校のところに明德中学が入っていると、公立中学だけの年度比較ができないので、次から資料の表をもう一段付けて比較ができるようにした方が良くと思う。
鳥生教育大綱推進課長	明德中学の数字を別に掲載します。また示させていただきます。
野間委員	<p>それと表に東中が入っていないので、わかるようになっていた方が、人口の傾向がよりわかって今後の対策が立てやすいと思う。</p> <p>また、これは統廃合を目標として、しなければいけない前提の取り組みなのか。状況によっては統廃合をしない場合もあるので、すか。</p>
鳥生教育大綱推進課長	<p>資料は市全体の数字しか示していませんが、市内の26小学校の中でも、3校程度は増加傾向で、逆にすごく減っているところもあり、ばらつきがあるので、地域によって必要性は変わってくる。</p> <p>統廃合が必要であるかどうかは、地理的なことなども含めて総合的な判断になるかと思う。</p>
竹田委員	小中一貫校を導入するにあたって、今、「ここの学校を」というような学校があるのですか。
鳥生教育大綱推進課長	<p>導入が決まっているわけではない。ある程度隣接して近い学校でないとメリットが無いと考えている。</p> <p>特定の学校を示したものではありません。</p>
竹田委員	私が桜井の辺りしかよくわからないので、例として桜井小学校、国分小学校、桜井中学校を小中一貫とした場合、桜井小学校と国分小学校を統合させて1つの学校にしてから、小中一貫とす

るのか、3つの学校をもそのまま置いての上で小中一貫校にするのかというところを考えると、統合しないまま、小中一貫校にしても、あまり意味がないような気がします。

今、1クラスの学級の人数の上限は35人ですか。

井上学校教育課長

現在、小学校4年生までが35人です。

令和6年度からは、5年生以下が35人、6年生以上は40人が定員です。

竹田委員

全国的に、定員が一律35人になってきていると思うが、35人上限だと今治市では割と多いイメージがある。高学年の方が人数は多いが、机も昔より少し大きくなり、タブレットを充電する棚があって教室がすごく狭く感じる。40人のクラスだと参観日のときは、後ろに保護者が入れないくらい目いっぱい教室を使っている。

定員数を少なくして、クラスが増えればという思いがある。やはり1クラスしかなくクラス替えがないと、配慮すべき子どもたちを離すことができず、子供の逃げ場がなくなってくると思うので、クラスの人数も考えていただきたいと思う。

小澤教育長

人間関係が固定化することによるマイナス面なども、あるかもしれないですね。

あと、学級が増えたときに、少人数で先生方がより手厚い関わりという一方で、今、教職員が足り苦しいような状況になってきているので、教職員、講師を補充できるかというような、両方の案配があります。もしかしたら学校によっては二学級に分けて、それぞれの担任が、Aの担任の先生と、ちょっと指導力の落ちるBの担任の先生に、そのクラスを任したときという場合よりも、1学級で、Aの先生とBの先生が、その1つのクラスを、2人で見た方がいいというような状況もあったりもするんです。特に特別支援学級なんかにですね。

この一長一短が、どの学校にも当てはまるような状況です。

そして、統合も人数が少なくなった所だけではなく、地理的要因や、どのようにより良い教育環境が提供できるかという中に、小中一貫があると考えます。小中一貫教育の良さは、人数的に少ないのだけど、隣接しているこの学校で小中一貫にすると、小学校から中学校へスムーズに入学できるとか、外国語を小学校から計画的に早く勉強できますとか、中学校の専科の先生が小学校の方に指導に入りますというところがあります。

小中一貫の長所は、人数だけではなく、地域や学校区によっては生かせるのではないかとこのところを今後検討していきたい

と思っています。

山本委員

論点整理すると、小中一貫校は、議論の視野に当然入っていないといけないと思うが、学校適正配置の問題とは、切り離して議論しないといけないと思う。

学校適正配置の問題というのは、相当センシティブな問題であるから、今、きちっとした方向やスケジュールを出して、結論は全体最適ということ考えて、しっかりと考えを持ちつつ、丁寧に地域の皆様方の意見を聞いて、そして、納得をいただく、そのステップが大事だということを、当初から申し上げている。それぞれ個々の意見は相当あると思う。

そして、我々この任務を担っている教育委員としては、結論は持ちつつ、一定のバランスは要求されると思っています。

この示されたスケジュールは了解しました。これをもとに地域で説明し意見を聴取して誠実に対応することが求められるのではないかと思っています。

小中一貫の問題は6・3・3制を見直すとか、いろんな議論が出ているが、子どもの発達段階に沿った教育の仕方に変えていくというふうな議論から入っていかないといけない。

長井委員

小中一貫校について、教育委員になったときに、議論が前向きだなと思って驚いた記憶がある。私も教育委員として呉市を視察した。

メリットは、幼児期からの連携も図りながら、義務教育の9年間を連続した系統性があるカリキュラム編成ができ、子どもの成長を長期的に見守ることができる点。

一方、地域への説明など意識統一や打ち合わせ、事業準備などに時間を取られ、特に初期段階では教職員の負担がかなり大きい点がデメリットである。

今治市では、小中学校間で積極的に交流や引継ぎを行っている校区を中心に、先進的な取り組みのよさを取り入れつつ、連携をこれまで以上に強化していく中で、できる部分から制度設計するのが現実的な対応ではないか。

確かに良い点が多いが、相当な覚悟がいる。

小澤教育長

小中一貫校は他県でもありますが、愛媛県では鬼北町の日吉小中学校の1校です。必ずしも先進的なことが良いということではなく、やはり今治の小中学校にふさわしいかどうかといったところで、これまで視察も行っていただいていますので、今治市の学校に当てはまる部分とか、良い教育環境を作るために生かせるところを今後検討して参りたいと思っています。

地域の方がやってよかった、100%は難しいと思うんですけど、

鳥生教育大綱推進課長

そのためにどのような条件を整えていくかっていうのが、これからの意見を聞きながらになると思います。

すべての方に納得をしていただくことは、この適正配置の問題にあたっては、難しいと思うが、丁寧に進めて参りたいと考えております。

スケジュールに関しましては、これまで令和6年度中に方針決定をすることを、議会の方で説明をしていたところですが、こういうセンシティブな問題ですので、十分に市民の方々に説明と意見聴取をしていく必要があるということで、少しお時間を延ばさせていただきスケジュールとしています。

そして小中一貫校制度につきましては、学校運営協議会で説明する中で、適正配置の1つの解決策になるのではないかと少し紹介をした中で、いただいた意見が、「小中一貫校であれば、学校が地域に残るし、学校自体の規模がそれなりに保てるのでいいのでは。」というご意見があったという紹介でございます。

ですので、これに必ず取り組むという意味ではないということで、ご理解いただいたらと思います。

野間委員

主な意見の上の4つが両極端ですよね。多い方がいいから統合進めて欲しいっていう人と、やっぱり地域のコミュニティーとして残して欲しいなど、様々な意見の方がいらっしゃるので、教育にかける市の予算や教職員数の推移等、しっかり根拠付けて説得できる資料が必要だと思う。

長井委員

今回はスケジュール等の前振りだったので、今後進めていく中で当然そのような形になっていくと思う。きちんと積み上げていかなければいけない。

正岡教育政策局長

本日は、適正化に向けた進捗状況について、今年度取り組んできたこと、そして、今後の大まかなスケジュールを示させていただいています。

これから来年度、早速、通学区域調整審議会に諮問いたしましたし議論いただく。その時には必要に応じて資料やエビデンスなどを集めながら、説明をしていく必要がありますので、その際は教育委員の皆様にもご相談させていただきながら進めてまいります。

小澤教育長

承認してよいか問う

—各委員—

承認する

小澤教育長	「その他2 今治市学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針について」説明を求める
井上学校教育課長	—「その他2 今治市学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針について」説明—
小澤教育長	質疑はないか問う
竹田委員	<p>部活動の地域連携を図るにあたって、3番の複数校による合同チームを実施する中で、私たちが中学生のときには考えられなかったが、今の中学校には無い部活動がたくさんあり、近隣の中学校への校区外進学をとる生徒たちもいるので、地域の生徒数が減るのも、そのようなことがなくなると、問題も1つは解消されるのかなと思います。</p> <p>合同チームになったときに、大会を考えなければいけないが、この部活動の地域移行は学校の先生の負担もかなり減ると思うので、ぜひ進めていただきたいなと思います。</p>
野間委員	<p>学校の先生以外に、指導者の方が外部から来られるということで、部活動において、どうしても熱心になると結果を求める指導者の方が出てくるかもしれない。子どもが求めるよりも、ヒートアップした場合に、方針について、みんなで点検や話し合いをしましょうというときに、学校や教育委員会に相談窓口を設けているんでしょうか。</p>
井上学校教育課長	<p>両者が窓口になっています。</p> <p>学校で行うことは、校長の責任においてやっており、今はまだ完全に移行できているわけではなく、外部の指導者に入っていたら、どのような形ができるか模索中です。教育委員会にも相談していただくと、情報共有できますし、現在関わっている指導者については、研修を受けていますので、勝利至上主義だけにこだわることなく、子どもたちの心と体の健全な育成を、まず大事することにご理解いただいている方に協力してもらっているのが現状です。</p>
小澤教育長	<p>人数が少なくなってくると、やっぱり部活動も、教員が少なくなると、部活動の種類が減るから、受け皿が少なくなってしまうと、負のスパイラルになってしまう場合がある。</p>
野間委員	<p>そうしたら、さっきの統廃合も部活もよく考慮しないといけない。</p>

小澤教育長

その1つですね。教職員が充実することによって受け皿は増えるということは、1つのうたい文句にはなるんです。

また、学校で生徒が減らないように、今年度から拠点校型といひまして、校区外通学しなくても、そこの部活動ができる取り組みも行っています。小規模校が、そのようなところでハンデ背負わないように、今後配分もしていくところでございます。

長井委員

高校の魅力化の際は、小さな学校は部活ができないので、もう一緒にしていきたいと思いますというのが大きな流れの1つだった。

突き詰めていくと、強い部活を希望した生徒は私学に行く。そうでない学校では、教員の働き方改革だとなってしまう。

中学校の先生に部活動の顧問を依頼せず地域移行するのは、避けては通れない大きな流れなので、そこを外さないようにしていかなければならない。

小澤教育長

承認してよいか問う

—各委員—

承認する

小澤教育長

他にないか問う

—各委員—

意見なし

小澤教育長

午後3時18分、閉会を宣す